

代官山地域の街並み景観における樹木の配置と分布

指導教員 加藤仁美教授

8AEB1218 中谷実佳子

1. はじめに

渋谷区代官山地域は、比較的低層の建物が多く、商業・業務・住居がバランスを保ちつつ静かで緑豊かな街並みを形成していた。しかし、同潤会アパートが代官山アドレスに建て替わったことを契機に、大規模開発が進行し、様々な環境の変化をもたらしている。中でも、大規模な社宅や住宅地等の建替えや更新に伴う大量の樹木の伐採などが、地域の課題となっている。

また、景観ガイドラインの作成に向けたワークショップ等でも、代官山地域の街並み景観として「植栽」「樹木」が大きな要素となっていた。

本研究では、代官山地域の街並み景観の中でも樹木の重要性に着目し、街並みにおける樹木の配置と分布の現状を把握するとともに、地域のルールとして、既存樹木等を保全する新たな仕組みを検討することを目的とする。

調査対象地域は、代官山町、猿楽町、鉢山町、鶯谷町とし、研究方法は、①既往研究「代官山地域における景観実態調査」(2010年度卒業論文)の景観調査より樹木のある景観写真の抽出、②対象地域における建築敷地単位の樹木・植栽の配置・分布の調査(写真撮影による)、③連続立面写真による樹木等の実態調査と立面緑化率の算出(旧山手通り・八幡通り)、とした。

2. 樹木・植栽実態調査の分析

図は、道路側からの視認による樹木・植栽実態調査により、代官山地域に現存する中高木(3m以上の樹木)、低木(1m以上3m未満の樹木)のある箇所を示したものである。また、2001年の同調査(代官山町・猿楽町)時から消失した樹木を記載した。

これによると、旧山手通りや八幡通り沿道に中高木が多くみられ、商店や住宅の混在した小街区内に低木の多いことがわかる。中高木が特に多いのは、代官山町A・猿楽町F・鉢山町Gであることがわかる。低木は中高木の多い代官山町A・猿楽町F・鉢山町Gのほか、代官山町B・猿楽町Eで、特に多くみられる。

代官山町(A・B)は八幡通りの街路樹、代官山アドレスがあることから中高木が多い(154本)が、八幡通り側のBエリアには樹木が少ない。猿楽町(C・D・E・F)は、旧山手通り、八幡通りに面し、商業施設、業務ビル、住宅等が混在した地域であるが、中でもFエリアでは旧山手通りを挟んで目黒側に中高木が多く見られる。鉢山町(G・

H)は、Gエリアの都立第一商業高等学校から続く亀山坂に樹木が連なっているが、Hエリアには、樹木が少ない。鶯谷町(I・J・K)はKエリアの乗泉寺に中高木、低木が密に存在している。Jエリアの大規模なマンションの敷地の一部では、中高木が連なっている。なお、Iエリアには、樹木が少ない。

また、樹木分布図に、渋谷区公図台帳の筆割を重ねてみると、大規模な旧屋敷地跡の土地で、樹木の密度が高くなっていることがわかる。例えば、既往研究の旧土地台帳から、金光・徳川邸(Fエリア)、古河邸(G)、山本邸(K)、藤村邸・旧北白川邸(B)等の屋敷地跡で、樹木が多く分布していることがわかる。

2001年調査時と比較すると、代官山町Bエリア(72本)、猿楽町Fエリア(84本)の樹木が、特に多く消失しており、例えば、旧徳川邸跡のNTT及びノースウエスト航空の社宅跡地における大規模開発による樹木の消失も確認される。

表1は、旧山手通りの連続立面写真による樹木の分布と立面緑化率を示したものである。

これをみると、低層の建物高さを超える7~16mの高さの中高木が多くみられる。立面緑化率については60%~70%の樹木密度の高い建物敷地もみられた。

表2は、街並み景観に樹木が寄与している建築物を抽出し、建築概要書(2001年度以降)によりその配置を把握したものである。

商業・業務ビルでは、敷地内の大通りに面した場所に高木が配置されており、本数は少ないが、大きな樹形が景観を創りだしている。戸建住宅は、道路側からみると小敷地内に樹木が建物を覆うように配置している。集合住宅は、中庭に中大木を配置し、敷地の周囲を樹木で覆っている。

3. まとめ

以上から、今後も大規模敷地の建替え更新に伴い、多くの樹木が伐採される可能性が明らかである。代官山地域のルールとして、①幹線道路沿道には10m以上の既存樹木を必ず確保すること。②個別の住宅・店舗等の建替え時には、道路側から視認できる位置に既存樹木を必ず配置すること、というガイドラインを設けるべきである。

・参考文献
「用途混在型都市開発及び更新における地域主体の成長管理の可能性に関する研究」加藤仁美(東海大学工学部教授)2008年、「代官山地域における景観実態調査～景観ガイドラインの検討に向けて～」青間勇多2011年、『代官山地域における歴史的文脈と大土地所有の変容に関する調査』赤坂武宣 2006年、「代スキマップ」代官山ステキな街づくり協議会「ゼンリン電子地図概Z13」、「DAIKANYAMA SEAN」横文彦・池内紀・加藤仁美

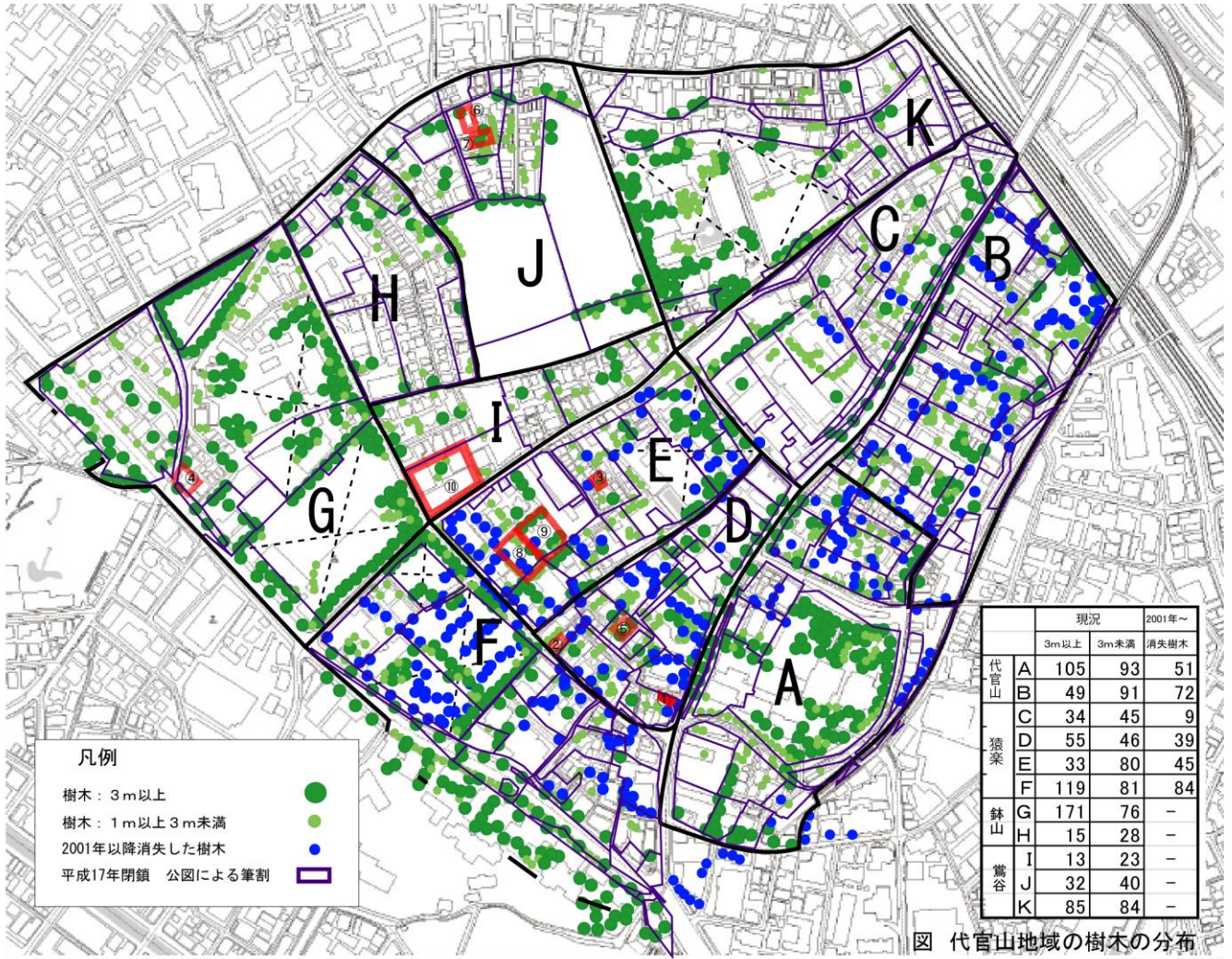


図 代官山地域の樹木の分布

表1 旧山手通り連続立面写真



立面緑化率	40.2%	8.55%	16.9%	58.6%	68.8%
用途・名称	住居複合 ヒルサイドテラスA棟 (2F)B棟 (3F)	その他 有料駐車場	住居複合 ヒルサイドテラスC棟 (3F)	ヒルサイドテラスD棟 (3F)	その他 デンマーク大規模 (3F) 商業施設 カフェレストランジュエロ (1F)
樹高・本数	7m 16本	12m 1本	12m 18本	13m 6本	16m 7本

表2 建築概要書より樹木の配置

商業・業務ビル	戸建住宅		集合住宅	
	① a: 112m ² b: 72m ² c: 6F(1F) 	② a: 194m ² b: 112m ² c: 2F 	⑤ a: 167m ² b: 111m ² c: 2F(1F) 	⑥ a: 156m ² b: 76m ² c: 3F
③ a: 88m ² b: 58m ² c: 2F 	④ a: 408m ² b: 196m ² c: 2F 	⑧ a: 1200m ² b: 355m ² c: 2F(1F) 	⑨ a: 1053m ² b: 570m ² c: 3F(1F) 	⑩ a: 2544m ² b: 1390m ² c: 3F(1F)

a 敷地面積 b 建築面積 c 階数地上(地下)